



京大広報

No. 526

1998. 7



白山の野生ニホンザルー関連記事本文547ページー

目次

〈大学の動き〉

- 博士学位授与式542
- 創立記念式の挙行542
- 清華大学との学術交流542
- 外国人留学生歓迎パーティー543
- 人権に関する研修会の開催544

〈部局の動き〉

- 法学研究科附属法政実務交流センター
開設記念シンポジウムの開催544
- 寄附講座「映像医療学講座」の設置545
- 物品等調達センターの設置545
- 平成10年総合博物館春季企画展の終了報告546

〈日誌〉

-546

〈訃報〉

-546

〈紹介〉

- 霊長類研究所547

〈文化交流〉

- シカゴの隣 エヴァンストンにて
中松 博英549

〈保健コーナー〉

- 京都大学における喫煙の状況とその対策550

〈洛書〉

- 白浜試験地のヒロハノナンヨウスギ
大島 誠一551

〈公開講座〉

- 数理解析研究所数学入門公開講座552
- 農学研究科附属演習林公開講座
森のしくみと働きー芦生演習林への招待ー553

一終了報告ー

- 第3回総合博物館公開講座
「やさしい量子化学：福井理論と現代の化学」553

〈話題〉

- 証明書自動発行機の設置554

〈お知らせ〉

- 「白馬山の家」の夏季開設554
- 「白浜海の家」の利用555
- 総合体育館附設プールの夏季利用555

大学の動き

博士学位授与式

6月1日(月)午前10時30分から、京大会館において、総長、両副学長をはじめ、各研究科長、総合人間学部長、事務局長出席のもと、博士学位授与式が挙行された。

総長から、各授与者に対し学位記(平成10年5月25日付)が手渡された後、総長の式辞があり、午前11時10分終了した。

今回の学位授与者数は、課程博士38名、論文博士33名の計71名であった。

各研究科別内訳は次のとおりである。

研究科	課程博士	論文博士	合計
文学研究科	— 名	2 名	2 名
経済学研究科	1	—	1
理学研究科	9	3	12
医学研究科	4	2	6
薬学研究科	1	3	4
工学研究科	9	17	26
農学研究科	14	5	19
エネルギー科学研究科	—	1	1

創立記念式の挙行

6月18日(木)本学創立101周年記念式が、元総長、名誉教授、各部局長等関係者多数の出席を得て、本学総合体育館において挙行された。

式は午前10時に始まり、総長式辞、永年勤続者の表彰、永年勤続者代表の答辞があり、午前10時30分終了した。

本年表彰された方は、30年勤続者105名、20年勤続者50名の計155名であった。

お名前は6月19日の学報第4672号に掲載されている。



清華大学との学術交流

「学術交流に関する一般的覚書」が、平成10年5月5日に中華人民共和国の清華大学において、本学長尾 真総長と清華大学王 大中校長により署名され、交換された。

清華大学は、米国へ留学する学生のための予備学校として1911年に創設されたが、1925年に国立清華大学となり、1928年には学芸、法学、理学及び工学の4学部16学科を有する国立総合大学に改組され

た。1952年以降、科学技術大学として充実・発展してきたが、1978年以降、経営学、生涯教育、人文社会科学等の学部が設置され、中華人民共和国を代表する総合大学の一つとなった。

教員数は、教授830名、助教授1,596名を含む3,639名、学生数は16,368名(内 大学院生5,218名)である。

外国人留学生歓迎パーティー

平成10年度入学の外国人留学生歓迎パーティーが、6月3日(水)午後6時から京大会館において外国人留学生、総長及び指導教官等約200名が出席して盛大に行われた。

パーティーは、長尾 真総長の挨拶、新入留学生で文学部研究生のカワカミ バニー ジェニファーシキコさんのスピーチ、三好郁朗副学長の乾杯ではじまり終始なごやかな雰囲気の中に午後7時半すぎ閉会した。

なお、平成10年5月1日現在の本学の国(地域)別外国人留学生数は次のとおりである。



国(地域)別外国人留学生数調

平成10年5月1日現在

地域	区分					地域	区分					地域	区分											
	国名等	学部	大学院 修士	大学院 博士	研究生等 計		国名等	学部	大学院 修士	大学院 博士	研究生等 計		国名等	学部	大学院 修士	大学院 博士	研究生等 計							
アジア州 (24)	Bangladesh		2	10	1	13	アジア州 (15)	アルジェリア				1	1	北アメリカ州 (4)	イタリア		1	2	1	4				
	Cambodia	4	1			5		カメルーン			1		1			オランダ			1	1	2			
	中国	52	96	153	83	384		コートジボワール		1	1		2			ポーランド					4	4		
	インド			3	1	4		エジプト			2	3	5			ルーマニア	2	1	1	1	2	6		
	インドネシア	7	3	29	1	40		エチオピア				1	1			スロバキア					1	1		
	イラン	1		2		3		ガーナ			2		2			スペイン		1	1			2		
	イスラエル				1	1		2	ケニア		1	3			4		スウェーデン					6	6	
	ヨルダン				1	1		2	マダガスカル			1	1		2		スイス					3	3	
	韓国	6	32	83	38	159		マラウイ		1			1				連合王国		2	2	6	6	10	
	マレーシア	8	2	4	1	15		マリ				1	1				ユーゴスラビア					2	2	
	モンゴル	2			2	1		5	モロッコ	4					4		NIS諸国(3)	カザフスタン		1	1			2
	ミャンマー			2	2	2		6	南アフリカ			1	1		2		ロシア				4	2	6	
	ネパール	1	2	2		5		スーダン		1	2		3				ウクライナ					1	1	2
	パキスタン				4	1		5	チュニジア		1	1			2		北アメリカ州(4)	カナダ	2	1	1	1	6	10
	パレスチナ					1		1	タンザニア		1	3			4		ドミニカ			1				1
	フィリピン	6			5		11	オーストリア		1	1	3	5		メキシコ					3		3		
	サウジアラビア					1	1	ベルギー		2			2		アメリカ		5	9	14	14	28			
	シンガポール	7	2	1	1	11	ヨーロッパ州 (21)	ブルガリア		1	3	1	5		アルゼンチン	2	2					4		
	スリランカ			1			1	クロアチア				1	1		ブラジル	1	2	4	1	1	8			
	タイ	2	11	15	3	31	チェコ					2	2		コロンビア				2		2			
	トルコ				5	1	6	デンマーク				1	1		パラグアイ				1		1			
ベトナム	2	2	3		7	フィンランド				1	1			ベルギー				1	1	2				
香港			1	2	1	4	フランス		3	3	5	11		ベネズエラ		1	1	1	1	3				
台湾	2	24	22	16	64	ドイツ				5	9	14		計(75か国)	119	215	420	241	995					
大洋州(2)	オーストラリア	3	2	2	2	9	ギリシャ		1	1		2												
	ニュージーランド	4		1	2	7	ハンガリー	1		1	1	3												

(学生部)

人権に関する研修会の開催

6月12日（金）午後3時から、附属図書館3階AVホールにおいて、人権に関する研修会が開催され、古澤 巖副学長及び渡邊 尚同和・人権問題委員会委員長等本学教職員約130名の参加者が熱心に聴講した。

本研修会は、学内外から講師を迎え、本学教職員を対象として同和・人権問題の啓蒙を図る目的で、毎年、春秋の2回開催されている。

今回は、本学人文科学研究所助教授の水野直樹先生に「在日韓国・朝鮮人の人権問題」というテーマで講演をしていただいた。



部局の動き

法学研究科附属法政実務交流センター開設記念シンポジウムの開催

法政実務交流センター（京大広報No. 523 1998. 4 P476参照）が本年4月に開設されたことを記念して、6月6日（土）午後、京大会館において、シンポジウム「行政改革と金融ビッグバン」が学内外関係者約140名の出席のもとに開催された。

シンポジウムに先立って記念式典が行われ、田中成明法学研究科長・センター長の挨拶に続いて、佐藤禎一文部事務次官、長尾 真総長から祝辞が述べられ、祝電が披露された。

シンポジウムは二部に分けて行われ、第一部「金融ビッグバン」では、森本 滋教授の司会のもとに、細田 隆客員教授（大蔵省大臣官房企画官）が金融ビッグバンの背景、主な内容、今後の課題などについて、州崎博史教授が保険分野の改革について報告し、フロアからも金融・保険関係者の意見が述べられた。第二部「行政改革」では、村松岐夫教授の司会のもとに、行政改革委員会委員を務められた藤田宙靖東北大学教授と佐藤幸治教授が、それぞれの経験をふまえて行政改革の意義や課題などについて意見を述べ、さらに村松教授の質問に答えるという形で展開され、フロアから井村裕夫前総長が国立大学のエイジェンシー化について意見を述べられるな



ど、興味深い議論がなされた。

レセプションは、井村前総長の祝辞と平場安治名誉教授の発声で乾杯の後、和やかな雰囲気の中に進められ、法学部名誉教授をはじめ、法曹界・地方自治体・金融界関係者、法学研究科専修コース大学院卒業生らが、シンポジウムをふまえて有意義な意見交換をした。

（大学院法学研究科）

寄附講座「映像医療学講座」の設置

このたび、大学院医学研究科に寄附講座「映像医療学講座」が設置されることになった。

概要は次のとおりである。

1. 部局名 大学院医学研究科
2. 名称 映像医療学講座
3. 寄附者 株式会社 日立メデコ
代表取締役 宅間 豊
4. 寄附金額 総額2億円（5回分納）
5. 設置期間 平成10年7月1日～平成15年6月30日（5年間）
6. 担当教員 助教授相当 富樫かおり
助手相当 小林久隆
7. 研究目的 高度な映像診療法の開発と共に、その治療への応用に関する研究開発を行い、低侵襲医療の発展を図ることを目的とする。

8. 研究内容 臨床各科・基礎医学と連携して新しい映像診断を創り出す研究開発、及び映像情報利用の一環としての低侵襲治療法の開発及び実施
 9. 研究課題 高度な画像診断技術の開発、及びこれらを利用した治療手技の研究開発
 - (1) CT, 超音波, MRI, 血管造影等を活用した高度な映像医療技術の開発
 - (2) functional MRI等のバイオメディカル・イメージングの開発
 - (3) 三次元画像による立体計測
 - (4) 手術シミュレーション
 - (5) 放射線治療シミュレーション
- (大学院医学研究科)

物品等調達センターの設置

工学部等事務部においては、事務の見直し・改善等について、鋭意検討を進めてきたが、平成10年4月から、会計事務の合理化を図る観点から物品等の調達事務を集中化することとし、経理課に「物品等調達センター」を設置した。

本センターの設置に当たっては、「物品購入等の取扱いについて」を作成し、各専攻長等及び専攻等事務室と経理課で意見の交換が行われてきたものである。

本センターの構成は、センター長に事務部長、センター長補佐に経理課長をもって充て、センターの業務を掌理することとし、また、センター職員は、当分の間、班別に編成した経理課の職員が毎日、センターに常駐し、工学部、工学研究科、エネルギー科学研究科及び情報学研究科等における物品購入等の発注、納品確認の業務に迅速に対応できる体制で



臨んでいる。

今後はさらに会計事務の合理化を図るため、電子化された処理方式を検討することとしている。

(工学部等事務部)

平成10年総合博物館春季企画展の終了報告

平成10年春季企画展が、5月23日（土）終了した。展示期間中の、入館者数は次のとおりである。

期 間	展 示 の 名 称	入 館 者 数				
		一 般	学 生	職 員	特別観覧	計
4/10 ＼ 5/23	企画展「福井謙一博士：その人と学問」 常設展「日本古代文化の展開と東アジア」 常設展「日本の古文書」	人 679	人 726	人 191	人 401	人 1,997

(特別観覧とは学術研究、視察その他博物館運営研究及び施設見学等である。)

(総合博物館)

日誌

1998年5月1日～5月31日

5月1日	総長、北京大学 創立100周年記念式典出席及び清華大学との学術交流協定等に関する意見交換のため中華人民共和国を訪問。並びに日独シンポジウム出席のためドイツ連邦共和国（ハイデルベルグ大学）を訪問（10日まで）	18日	京都大学春秋講義 月曜講義 第1日目（以後25日、6月1日、8日、15日開催）
12日	評議会	20日	京都大学春秋講義 水曜講義 第1日目（以後27日、6月3日、10日、17日開催）
〃	放射性同位元素等管理委員会	25日	核燃料物質管理委員会
13日	国際交流委員会	〃	防火委員会
15日	附属図書館商議会	26日	評議会

訃報

宮崎 義一 名誉教授



本学名誉教授宮崎義一先生は、5月20日逝去された。享年78。

先生は、昭和18年東京商科大学を卒業された後、横浜国立大学経済学部助教授、教授を経て、同50年京都大学経済研究所教授に就任され、昭和55年から同58年にかけて経済研究所長を務められた。

昭和58年停年により退官され、平成2年京都大学

名誉教授の称号を受けられた。本学退官後は東京経済大学教授、明治学院大学教授、立命館大学客員教授等を歴任され、平成5年、学士院会員に選任された。

先生の研究領域は、ケインズ研究を中心とする経済学説史、企業集団分析、多国籍企業論、国際金融論、世界経済論、日本経済論、現代中国経済分析等、きわめて広範囲に及んでいる。先生の刊行された18冊の著書は、いずれも独創的かつデータによる周到

な裏付けを加えられた業績であり、学界はもとより、経済論壇における論争の素材を提供するものばかりであった。特に平成4年に刊行された『複合不況』は、平成不況の本質を解き明かした業績として高い

評価に値する。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(経済研究所)

吉川 恭三 名誉教授



本学名誉教授吉川恭三先生は、6月4日逝去された。享年74。

先生は、昭和22年京都帝国大学理学部を卒業、同帝国大学理学部副手、甲南女子高等学校教諭を経て、昭和36年京都大学理学部助教授になり、大分県別府市にある理学部附属地球物理学研究施設に勤務された。昭和48年同研究施設の初代教授に就任、同62年停年退官、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

先生は、陸水物理学、温泉物理学の分野において、特に、放射能泉におけるラドン濃度の変動、海岸地下水に対する潮汐影響、温泉帯水層の多層構造、地

熱流体の熱力学的特性、温泉生成機構などに関し、多くのすぐれた独創的な研究業績を残された。研究施設では、現地の責任者として、永年にわたり調査・観測を主導されるとともに、その運営に大きく貢献された。また、日本陸水学会および日本温泉科学会の評議員として、学会の発展に寄与された。

先生は、大分県温泉審議会会長をはじめ地方公共団体の各種審議会委員等を歴任して地方行政にも貢献され、環境庁長官、大分県知事、別府市長からの表彰を受け、また、平成2年11月大分県の文化向上への貢献により大分合同新聞文化賞を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(大学院理学研究科)

紹介

霊長類研究所

霊長類研究所は愛知県犬山市におかれている。昭和42年に設置され、昨年で創立30周年を迎えた。人類進化の解明、つまり「人とは何か、どこから来たのか」を明らかにすることを目標に掲げ、生態・行動・形態・脳・遺伝子など多面的な視点から霊長類を総合的・学際的に研究している。米国などの霊長類センターには医学系のものが多く、本研究所のような総合的研究機関は世界的にほとんど例を見ない。また、本研究所は全国共同利用研究所として、全国から応募される毎年約100件の共同利用研究を推進している。

平成5年4月1日付けで、従来の9研究部門が4



緑がいっぱいのチンパンジー屋外放飼場

大研究部門（10分野）に改組された。それぞれの研究部門では、現在以下のような研究が進められている。

進化系統部門は、形態学や集団遺伝学の方法で、ヒトを含む霊長類の進化、系統、変異に関する研究を行っており、現生種および化石種の霊長類を研究対象とする。フィールド調査活動が盛んで、スタッフの調査地はアジア、アフリカ、南アメリカ、オセアニア、中近東に及ぶ。研究内容は多岐にわたり、現生人類の生成過程、各種霊長類の発育成長、形態および遺伝的変異、地理的分布、化石類人猿や化石新世界ザルの系統発生、家畜の起源などが挙げられる。

社会生態研究部門は、国内やアフリカ、アジア、南アメリカの各種霊長類生息地において個体識別に基づく長期継続研究を行っている。かつては双眼鏡とフィールドノートさえあれば研究ができると言われた学問分野であるが、近年は繁殖行動の研究にDNAによる血縁判定や性ホルモン動態分析を取り入れるなど、野外と放飼場、実験室を結びつけた学際的な研究を推進している。

行動神経研究部門は、ひとことで言うと、霊長類の行動と脳のメカニズムを主に実験的手法で研究している部門である。対象種は、ヒト、チンパンジー、マカクザル、新世界ザルなど。対象年齢は、生まれたての赤ん坊から、老齢ザルまでを網羅する。対象とする「行動」も、個体レベルの感覚・知覚から、統合的な認知機能、さらには社会的な知性にいたる。その手法も実験心理学、認知科学、動物行動学、神経心理学、神経科学と幅広い。こうした脳と心に関する広大な研究領域を、各研究者の自主性を重んじつつも互いに連携しあいながら研究を進めている。

分子生理研究部門は、霊長類の進化や種特性を、個体から分子レベルまで多面的に解明することを目的として研究を行っている。現在のテーマは脳内生理活性物質の発生発達や加齢、細胞膜の電気生理、生殖内分泌機能、遺伝子塩基配列解析、DNAによ

る血縁解析、タンパク質分解酵素の遺伝子構造、免疫応答や止血反応に関わる機能因子、解毒酵素の比較生化学など様々である。

本研究所には二つの附属施設がある。ニホンザル野外観察施設は、下北、上信越、木曽、幸島、屋久島の国内5カ所に研究林・観察所を設け、野外研究の基盤確保につとめるとともに霊長類における保全生物学の確立を目指している。サル類保健飼育管理施設は、サル類の維持管理、繁殖に当たるとともに、ヒト以外の霊長類を対象として、生殖、疾病、発達、動物福祉に関する実験動物学領域での学際的研究を行っている。

21世紀を目前にして人類社会にはいろいろな問題が山積している。こうしたもとで、本研究所が取り組むべきいくつかの緊急課題がはっきりしてきた。脳研究の推進などが叫ばれる中で、実験動物としての霊長類の重要性が増している。本研究所は、自家繁殖体制の整備を進め、屋外放飼場に樹木を植え水を流すなど飼育環境を本来の生息環境に近づける努力を続けてきた。今こうした努力を科学として確立していくことが求められている。一方、霊長類の生息環境が縮小する中で人間との摩擦も増大し、霊長類とその生息環境の保護は急務となっている。比較的大型の動物である霊長類の保護が生態系の保全にとって果たす役割は重要であり、この分野での保全生物学の確立が急務となっている。

研究所に求められる学問的・社会的な役割を果たすため、本研究所では研究部門に引き続き2附属施設の発展的改組を目指している。また、平成10年度より5カ年計画で、中核的拠点（COE）形成推進計画「霊長類の進化と人類の成立」がスタートした。本計画では、類人猿を生態・形態・脳・DNAなどの面から総合的に研究し、21世紀に求められる「地球と共生するヒト」の姿を探っていくことを目指している。

（霊長類研究所）

保健コーナー

京都大学における喫煙の状況とその対策

たばこが健康に与える影響については、いまさらここで改めて書く必要もないでしょう。以前にこの「保健コーナー」で、1995（平成7年）年度に京都大学に入学した新入生と、2回生に進学した1年後の生活習慣、ことに飲酒率と喫煙率の変化について書きました（京大広報No. 506, p. 108～109, 1996）。

その後も前回と同じ方法でアンケート調査を継続的に行っておりますが、このたび大学院生の集計を行うことができましたので、その一部の成績を紹介しておきます。学部学生については1995年から1997年度まで、大学院生については1995, 1996年度の学生が対象になっております。

アンケートの方法は以前に詳しく記載しましたが、簡単に触れておきますと、毎年4月に保健管理センターが実施しております定期健康診断の時に、健康診断個人票の裏面のアンケート項目に記入してもらうという方法です。したがって、アンケートの回収率はほぼ健康診断の受検率に等しく、学部学生で95～99%, 修士課程学生で91～92%, 博士課程学生ではやや落ちて63～64%というところ です。

職員の喫煙についての調査は、毎年実施しております人間ドック受検者のアンケート調査を集計したものです。

1. 学部学生の喫煙について

1995年から1997年の3年間に京都大学に入学してきた男子学生の喫煙率は、4.0～4.4%の範囲にあり、

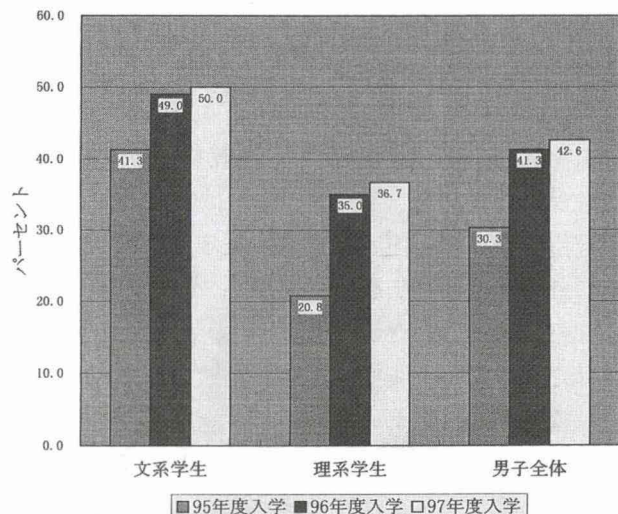


図1 18歳未満で喫煙を開始した男子学生の割合

女子学生ではほぼ1%程度の低い喫煙率を示しております。ところが、1年間の大学生活を過ごした時点では、男子では10%程度に増加します。禁煙する学生も僅かながらいますが、圧倒的にたばこを吸い始める学生の方が凌駕しております。それよりも危惧されるべきことは、ここ3年間の喫煙学生について調べたところ、世間一般の傾向とはいえ、喫煙を開始した年齢が低下してきていることであります（図1）。中学・高校生の頃から喫煙の身体にあたる影響をきちんと教育する必要性が痛感されます。

ちなみに、本学の学生部が実施している「学生生活実態調査」によれば、昭和37年度の教養部男子学生の喫煙率は41.6%, 学部男子学生のそれは63.2%という高い率を示しております。

2. 大学院生（修士・博士課程）の喫煙について

1995年に入学した修士学生の喫煙率は19.9%でしたが、1年後には18.5%と僅かですが低下を示しておりました。博士課程の学生でも、入学時の20.5%から1年後には18.8%に低下していました。健康に関心の高い学生が健康診断を受検してアンケート調査に答えたということを割り引いても、大学院生の入学後の喫煙率低下は明らかでしょう。

3. 職員の喫煙について

1995年から1997年度までの3年間に人間ドックを受検した人は、男子が970～1,140人、女子が189～227人という数にのぼります。男女の喫煙率を図2に示しましたが、男子の喫煙率はここ3年間ほぼ

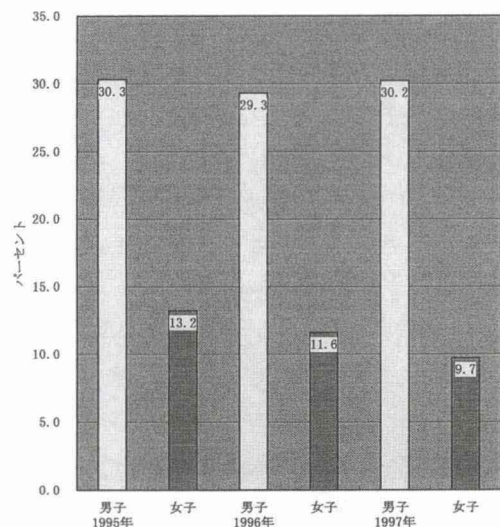


図2 1995年から1997年度までの男女教職員の喫煙率

公開講座

数理解析研究所数学入門公開講座

数理解析研究所では、来る8月3日（月）から8月7日（金）の5日間、社会人、中・高校教師、学生等一般人を対象に「数学入門公開講座」を、下記のとおり開催します。

記

8月3日（月）～8月7日（金）（毎日）

10：30～11：45 無理数，超越数

助手 永田 誠

$\sqrt{2}$ は無理数，円周率 π は超越数，というのは良く知られています。 $\sqrt{2}$ が無理数であるということはギリシャ時代には既に知られていました。一方 π が超越数であるということが証明されたのは約百年前のことです。現在でも，ある数が超越数（または無理数）であるかどうかを判定することは大変難しい問題です。

本講座では，現在この分野でどのようなことが知られているのかということの紹介等を話題に進めていく予定です。

13：00～14：15 微分方程式と発散級数

助教授 竹井 義次

「収束」の概念が確立された現代の解析学においては，収束しない発散級数は，取り扱いの難しい厄介な代物と考えられがちです。しかしその一方で，微分方程式を解く過程でしばしば発散級数が現れます。では，こうした発散級数で表される解には何の意味もないのでしょうか。面白いことに事実とは全く逆で，収束する解と比べても遜色ないほど多くの情報を発散級数解は含んでいるのです。本講義では，発散級数を論じる際の基本的な道具である「漸近展開」や「Borel総和法」の解説を行いながら，モノドロミー群といった微分方程式の解の大域的な性質と発散級数解との関わりについて考えてみたいと思います。

14：45～16：00 再帰的構造とアルゴリズム

助手 西村 進

自然数の階乗を求める関数 f は

$$f(n) = \begin{cases} 1 & (n=0 \text{ のとき}) \\ n \times f(n-1) & (n>0 \text{ のとき}) \end{cases}$$

のように定義できますが，このような定義を，自分自身の定義を使った定義という意味で，再帰的定義といいます。このような再帰的関数定義は，自然数に限らず，リストや木などの再帰的構造を持つようなデータの処理を，簡潔にかつわかりやすく記述するのに非常に有効です。

本講座では，再帰的プログラミングの入門から始めて，いくつかのアルゴリズム（問題を解く手順）を，再帰的プログラミングの観点から紹介します。

◆会場 京都市左京区北白川追分町

京都大学数理解析研究所4階大講演室

（※自家用車での来場はご遠慮ください。）

◆定員 120名（先着順）

◆受講料 7,400円（テキスト代を含め全講義を通しての受講料で消費税を含みます。受講決定通知後に受講料を納付願います。）

◆申込方法 (1) 期限 平成10年7月10日（金）午後5時（必着）

(2) 手続 官製往復ハガキ（1名につき1枚限り，複数枚の応募は無効）に①氏名 ②住所（電話番号も記入のこと） ③年齢 ④職業（〇〇大学〇回生，〇〇高校数学担当教員，主婦など） ⑤申し込みの動機 を明記のうえ下記あてに申し込んでください。なお，返信ハガキは，採否の通知に用いますから，必ず郵便番号・住所・氏名を記入してください。

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学数理解析研究所「数学入門公開講座」係（電話（075）753-7202）

農学研究科附属演習林公開講座 森のしくみと働き—芦生演習林への招待—

農学研究科附属演習林では、来る8月6日、7日、8日に、広く一般市民を対象とする公開講座「森のしくみと働き—芦生演習林への招待—」を下記のとおり開催します。

記

8月6日(木) 芦生の自然について(講義)

開講挨拶	教授		竹内典之
芦生演習林の概要	教授		竹内典之
日本の森林帯と芦生の森	教授		大島誠一
芦生の植物	技官		中根勇雄
芦生の樹木識別入門	技官		登尾久嗣

8月7日(金) 天然林内での講義並びに実習(各班10人、5班の編成で行います)

	教授	川那辺三郎	教授	竹内典之
	教授	大島誠一	助教授	安藤信
	助教授	芝正己	助教授	柴田昌三
	講師	西村和雄	講師	中島皇
	助手	寄元道徳	助手	濱本なお
	助手	長谷川尚史	助手	中西麻美

8月8日(土) 森林と人間の関わり(講義)

ダイナミックな森林と樹木の生活	助手		寄元道徳
森林の地球化学	講師		西村和雄
日本の森林資源とその利用	助手		長谷川尚史
閉講挨拶	教授		川那辺三郎

◇日程：8月6日(木)13時～8月8日(土)12時(2泊3日)

◇場所：芦生演習林

◇定員：50名(応募者多数の場合は抽選)

◇受講料：7,400円(但し、宿泊費、交通費などは別途)

◇申込方法：官製往復はがき(1名につき1枚)に住所、氏名、年齢、職業と連絡先(電話番号)、交通手段(自家用車または路線バス使用)を記入し、返信用に郵便番号、宛名を記入のうえ6月30日(火)(必着)までにお申込みください。

◇問い合わせ及び申込先

〒601-0703 京都府北桑田郡美山町芦生

京都大学大学院農学研究科附属演習林 芦生演習林事務掛(TEL 0771-77-0322)

—終了報告—

第3回総合博物館公開講座「やさしい量子化学：福井理論と現代の化学」

公開講座「やさしい量子化学：福井理論と現代の化学」が4月18日、25日、5月2日、9日の各土曜日(午後1時30分から4時まで)に開催された。

今回の公開講座は工学研究科・工学部、財団法人基礎化学研究所の協力で、工学研究科教授4名が講師となり、ノーベル賞に輝くフロンティア軌道理論

をはじめとする福井謙一博士の業績と、その上に開花した今日の化学の発展について、一般市民を対象にわかりやすく講義したものであり、46名が受講した。

(総合博物館)

話題

証明書自動発行機の設置

工学部等事務部においては、事務の見直し・改善等について検討を進めてきた。特に、平成10年度に情報学研究科が設置されることに伴い、教務事務の効率化および省力化のための具体策の一環として、証明書自動発行機の導入を立案し、研究科・学部の委員会の了承を得て設置に踏み切った。

この証明書自動発行機は工学部等教務課の窓口横に設置されており、平成10年2月から在学証明書、学割証および当該年度の卒業（修了）証明書の自動発行を行っている。従来から、学割証や在学証明書等の発行について、申し込みから発行までの期間短縮を学生から強く要望されていたが、この設置により、証明書、学割証の即時発行が可能となった。また、取り扱い時間も午前8時から午後6時までと従来より長くなるなど、学生から好評を得ている。



今後は、成績証明書（英文を含む）、卒業・修了見込証明書等もこの自動発行機が利用できるよう、検討を進めている。

（工学部等事務部）

お知らせ

「白馬山の家」の夏季開設

本学の学生及び教職員の厚生施設として、「白馬山の家」を、下記のとおり開設しますので、ご利用ください。

この「山の家」は、中部山岳国立公園白馬山麓^{つがいけ}の梅池高原にあり、雄大な北アルプスの峰々に囲まれ、登山や避暑などに最適です。

なお、建物は山小屋風の木造地上2階地下1階建てで、間取りは1階が食堂兼談話室、2階が寝室、地階が浴室、乾燥室からなっています。

記

1. 名称 京都大学^{はくぼ}白馬山の家
2. 所在地 長野県北安曇郡小谷村大字千国字柳久保乙869の2
(交通機関) JR大糸線「白馬大池駅」下車、松本電鉄バス「親の原」^{おやのほら}下車、徒歩約20分
3. 開設期間 7月10日(金)～8月20日(木)
4. 収容人員 26名
5. 所要経費 1人1泊 使用料120円、ほかに食費等実費
6. 申し込み及び利用に関する詳細
体育会事務室(西部構内総合体育館内、電話学内2574)に照会してください。

(学生部)

「白浜海の家」の利用

本学の学生及び教職員の厚生施設として、「白浜海の家」を下記のとおり通年開設していますので、ご利用ください。

この「海の家」は、三段壁をはじめ千畳敷・円月島など風光明媚な南紀白浜にあり、夏は海水浴に最適のところですよ。

また、「海の家」のある大学院理学研究科附属瀬戸臨海実験所の構内には、500種以上の海の生物を集めた「京大白浜水族館」があり、近くには「南方熊楠記念館」もあります。(いずれも有料)

記

1. 名称 京都大学白浜海の家
2. 所在地 和歌山県西牟婁郡白浜町
京都大学大学院理学研究科附属瀬戸臨海実験所構内
(交通機関) JR紀勢本線「白浜駅」下車、明光バス「明光バス本社前」行きに乗車、終点で「臨海」行きバスに乗り換えて、「臨海」で下車。
3. 開設期間 通年開設
4. 室数 和室3室
5. 収容人員 30名
6. 所要経費 1人1泊 使用料130円、ほかに食費等実費
7. 申し込み及び利用に関する詳細
体育会事務室(西部構内総合体育館内、電話学内2574)に照会してください。

(学生部)

総合体育館附設プールの夏季利用

総合体育館附設プールを下記の期間・時間にかぎり、本学の学生及び教職員向けに開放しますので、ご利用ください。

なお、利用可能日等の詳細については、学生部学生課(西部構内総合体育館内、電話学内2590)に照会してください。

記

1. 期間 7月1日(水)～8月31日(月) (この間の40日程度)
2. 時間 正午から午後2時まで
3. 対象 本学の学生及び教職員

(注意)

1. 利用に際しては、受付で必ず職員証又は学生証を呈示し、利用者名簿に氏名等を記入してください。
2. プールに入る前には、必ずシャワーを利用し、十分な準備体操を行ってください。また、水泳帽は必ず着用してください
3. 貴重品は、持ち込まないでください。
4. 都合により、利用をお断りする日がありますので、ご了承ください。

(学生部)